

「パレートの法則」

先日、「世界で最も裕福な8人の資産と、世界で最も貧困な36億人の資産が同じである」との報道がありました。世の中、いろいろなものが偏って存在しているようです。

1. 「パレートの法則」とは？

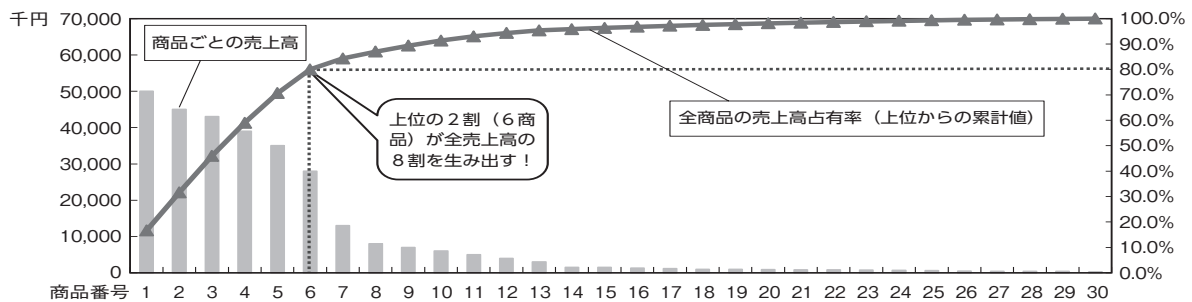
イタリアの経済学者、ヴィルフレド・パレート（1848-1923）が発見した、所得分布に関する法則です。「80対20の法則」「二六の法則」といえば、おわかりになる方も多いのではないのでしょうか。全体の2割の高額所得者が社会全体の所得の約8割を占めているとする法則ですが、所得の分布に限らず、経済、マーケティングなど、様々な分野において同様の状態がみられています。

＜パレートの法則が用いられる事象例＞

- ・ある企業の売上高の8割は全顧客のうちの2割からもたらされている。
- ・ある企業の売上高の8割は全社員のうちの2割が生み出している。
- ・ある銀行の預金残高の8割は全顧客のうちの2割が占めている。
- ・ある機械の故障の8割は使用全部品のうちの2割が原因である。
- ・ある仕事の成果の8割は費やした全時間のうちの2割で生み出している。等々

2. パレートの原則を「商品別売上高」に適用してみると…

「ある企業の売上高は全商品のうちの2割が生み出している」として考えてみます。その企業の年間売上高が300百万円、商品数が30品目とすると、上位2割である6品目で売上高の8割となる240百万円を生み出していることになります（下図参照）。



3. 上位2割に経営資源を集中すればよいのか？

パレートの法則によると、全体の2割がその会社の8割の売上や利益をもたらしているのですから、その2割にのみ注目した方が、効率が良いように見えます。一方、他の8割に注目しないことは事業の拡大があまり見込めないことにつながるかもしれません。また、近年拡大したインターネット通販の場合は、パレートの法則とは別の考え方も必要となってきたようです。次号では「ロングテールの法則」を取り上げます。乞うご期待!!

閑話ひとつ

- ▶ 福島第一原子力発電所（1F）には、過去2回視察をさせていただく機会がありました。1回目は事故4カ月前の2010年11月で、当時の吉田所長自ら安全への取組みの説明をしていただきました。2回目は2014年5月で、事故後3年が経っていましたが、いまだガレキがたくさん残っており、防護服を着ての視察でした。
- ▶ そして、この4月13日に3回目の視察をさせていただきました。前回とは様変わりです。防護服を着る必要はなく手袋のみの着用でした。1F構内はかなり整備されており、1日約6,000人が働く廃炉作業員の方々の労働環境もかなり改善されてきていると感じました。一方、汚染水貯蔵タンクが林立し、この後40年続くととも言われる廃炉作業を考えると言葉が出てきません。
- ▶ 浪江町は3月31日、富岡町は4月1日に帰還困難区域を除いて避難指示が解除され、東日本大震災と原発事故により休止されていた、富岡町夜の森地区の桜並木のライトアップも7年振りに再開されました。
- ▶ 今回の1F視察の帰りに、日中ではありましたが満開のこの桜並木を通り、そのあまりの美しさに心を奪われてしまいました。この夜の森の桜並木に、以前のようにたくさんの地元住民の方々が集う日が早くやって来ることを願ってやみません。

(TA)